

平成30年度 第2回 府中市保健計画推進協議会会議録

日時：平成30年11月2日（金）
午前10時から11時30分
場所：保健センター1階成人保健室

- 出席者 委員：藤原 佳典（学識経験者・
独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム研究部長）
黒米 俊哉（医療・府中市歯科医師会）
村上 邦仁子（行政・多摩府中保健所保健対策課長）
田中 勝彦（企業・職域 むさし府中商工会議所）
芦川 伊智郎（地域・府中市社会福祉協議会事務局長）
清水 春美（公募委員・市民）
平河 弘子（公募委員・市民）

事務局：村越福祉保健部長
横道健康推進課長
石田健康推進課長補佐
福嶋成人保健係長
石堂保健師（成人保健係）
小澤保健師（成人保健係）
島村保健師（成人保健係）
植松歯科衛生士（成人保健係）
中鉢栄養士（成人保健係）

※協議会設置要綱第6条の2項により、委員8名中7名が出席しているため、本協議会は、有効とされました。

■進行：石田課長補佐

- ・開会宣言
- ・配布資料の確認 ※配布資料は別添参照

■これより、議事進行は会長となる。※傍聴希望者なし

1 報告事項

(1)平成30年度元気いっぱいサポート事業について

【事務局】

資料1-1をご覧ください。

前回の会議で、今年の元気いっぱいサポート事業スケジュールをお伝えしましたが、その進捗状

況について資料に沿って説明いたします。

まず、資料上段の図は、元気いっぱいサポーターの全体像を表したものです。現在、登録者数は約1400人です。そのうち、グループとして活動を開始したまたは今後開始していきたい、集団が4種あります。なお、複数の集団に属しているサポーターもいます。

では、図の下の1.「ノルディックでつながる会」グループ活動支援 から説明していきます。図の左上の集団になります。平成28年度・29年度に養成講座を修了し、サポーターリーダーとなった方々21人で構成されたグループです。現在、月1回程度の話し合いとウォーキングをセットに集まって活動しています。「ノルディックでつながる会」という名前も、集まりの中でメンバーで決めました。

市民を対象にしたウォーキングイベントでは、運営側として参加し、コースの下見や会場設定等の準備から、当日の受付等の役割や、参加者同士の交流のサポート等、イベント運営の大きな力となりました。

次に、2. 平成30年度 サポーターリーダー養成講座 については、サポーターリーダーになる人材の育成を目的に5日間の講座を行いました。

元気いっぱいサポーター登録者に対し、参加募集したところ、定員40名に対し、58名の申込みがありました。定数をオーバーしたため抽選を行い、最終的には39名で講座をスタート、先月末に講座を終了しました。詳細は後ほど説明いたします。

次に、3. 読み聞かせグループの養成 についてです。今月から、絵本の読み聞かせ養成講座をスタートします。この講座は、サポーターリーダー養成講座の受講者に対し、ステップアップ講座として実施します。1のノルディックでつながる会メンバー及び、2のサポーターリーダー養成講座受講者に対し募集をし、定員20名のところ、38名の申込みがありました。こちらも抽選を行い、受講者を決定しています。

養成講座は全14回です。講座終了後は、受講者をグループとして、読み聞かせのスキルを高め、市と協働して事業を実施していくことを計画しています。

2・3について、それぞれに定員を上回る申し込みがあったことから、サポーターの意識の高さがうかがえる結果となりました。

次に、4. ノルディックウォーキングイベントについてです。今年度は3回実施します。すでに終了した10月5日と、12月4日、資料には翌年3月とありますが、2月20日に決定しました。

各回40人の公募市民とボランティアのサポーターリーダー20名 計60名で実施します。このイベントは先着で受付をしていきますが、1回目については3日で定員がいっぱいになりました。

ノルディックウォークの実践や参加者同士でポール遊びを介して参加者同士の交わりができるよう、イベント構成し、とても雰囲気良く実施できました。残りの2回についても、コース等、検討し実施していきます。

最後に、5. 元気いっぱいサポーターの取組に関するアンケートについてですが、全サポーターを対象に、7月にアンケート調査を実施しました。このアンケートについても、後程詳細を説明いたします。

元気いっぱいサポート事業についての説明は以上です。

質疑応答

【委員】読み聞かせグループの養成ということについて、『心とからだ両方とも元気になる』ということだと思うが、こういった内容の読み聞かせをしているのですか。

【事務局】絵本の読み聞かせを実施しています。本は園児から小学校高学年や中学生向けのものまで幅広くありますが、様々な絵本の読み聞かせのスキルを身につけるための講座として実施しています。

【事務局】自殺対策計画の策定のなかで、SOS の出し方教育の取組が今年度から全国で始まっています。東京都が作成した DVD の活用だけではなく、心に響く絵本の読み聞かせを取り入れることによってインパクトをつけることを目的とし、現在1回実施したところです。その読み手を養成するという意味合いもあります。

【会長】読み聞かせの講座については、市民とシニアとのコミュニケーションのツールとして、自分のメッセージを伝えるきっかけになるのではないかと考えています。シニアにとっては、発声練習、正しい姿勢等の練習等により脳トレにもなり、相互にメリットがあると考えています。

【委員】とても前向きでいい計画だと思います。ボランティアが読み聞かせをする対象は中学生を考えているのですか。活動する際は有償か無償か教えてください。

【事務局】SOS の出し方に関する教育についての対象は中学生と決まっていますが、それ以外は小学生、学童保育等の想定があり、担当課と調整し、いろいろな年代での実施を考えています。費用は無償と考えています。

【委員】サポーターリーダー養成講座の落選者の対応についてですが、今年度の落選者は来年度は優先的受講できるのですか。

【事務局】優先的に受講できるかは検討中です。やる気をもって申込みしているのはわかりますが、来年はまた新たなサポーターの登録もあるので、同じような募集の仕方になると思います。

・元気いっぱいサポーター養成講座実施報告

【事務局】

資料1-2をご覧ください。

この講座は、1目的にありますとおり、サポーターに対して、市の健康づくりの考え方や取組、ソーシャルキャピタルの醸成に資する事業の推進役としてのあり方を理解してもらうために実施しています。講座終了後も、継続的に市と協働し、健康づくりの取組みを市民全体に広げられる人材となるよう、働きかけていきます。

2 受講者についてですが、65歳以上の方が多く、年齢幅は58歳～78歳でした。男女比は、女性が31名と多かったです。男性も8名と4分の1の参加がありました。

3 内容は、表のとおりです。第1回は「地域のつながりと健康づくり」の内容で、藤原先生にご講義いただきました。考え方の基礎となるため、必須とし、欠席者には補講も行いました。第2回は社会福祉協議会の職員の方にもご協力いただき、地域での具体的な活動の紹介もあり、グループワークが深まりました。第3回目は、ノルディックウォークの基礎、第4回は栄養の講話とグループワーク、第5回は今年度初めて加わったゲートキーパー研修です。ロールプレイも含め、地域のつながりは、こころの健康にも必要な要素と考えられる機会となりました。グループワークも多かったため、回を重ねるごとに参加者同士の交流もみられていました。

裏面の4番、実施状況ですが、実人数・延べ人数は表のとおりです。39人でスタートしましたが、最終的には37の方が修了できました。つながりをつくることも講座の目的の一つなので、欠席者には補講を行うだけではなく、主旨を説明し、辞退となる方もいました。次年度は、講座開始前に説明会を行う等の工夫が必要と思われました。

5の受講者アンケートですが、講座中に3回実施しています。参加のきっかけとしては、②自身の健康づくりや④ノルディックウォークへの興味が強い状況ではありましたが、⑤の「地域とのつながりをつくりたかった」と回答している方も予想より多く、約4割でした。参加者の中には、すでに地域で活動を行っている人も多く、講座の内容やグループワークでの情報交換が活動のプラスになったとの声もありました。今後サポーター活動を継続していく中でも、つながれるきっかけを一緒に探していけたらと思います。参考に、受講者の感想を一部載せております。

最後に講座修了者の今後の活動について、資料は3枚目をご覧ください。H28.29年度との違いが大きく2つあります。1つめは、受講人数の多さです。昨年度までは20人弱でしたが、37人と多く、グループに分けても7～8人となり、個々の参加者が見えづらい状況でした。受講者からも情報交換の時間が足りなかったとの声もあり、次年度は効果的な運営面の検討も必要と思われました。

2つ目は、テーマについてです。現在のつながる会については、「みんなで歩こう」という想いで集まり、活動が継続されていますが、今回の講座では、より色々な活動の可能性について触れていきましたので、現時点ではグループとして1つのテーマに決めることはしていません。講座内では、子どもの見守りや読み聞かせ、孤立や閉じこもり高齢者への支援などが挙げられていました。

修了者 37 人の今後の活動予定ですが、①の13人は、読み聞かせ養成講座で毎週1回集まる場がありますが、②の24人は、集まる希望があるものの、実施内容や手法は、今後詰めていくところです。

<具体的な予定>としましては、□の中になります。まず12月19日に第1回の交流会を行います。ウォーキングと個々で参加してみた活動の共有を予定しています。【31年度】はまだイメージですが、今年度の修了者向けの交流会を月1回程度開催し、社会参加したいテーマやウォーキングをどう取り入れるかなども一緒に考えていく予定です。また、サポーター全体に向けては、年2回くらいサロンのようなものを開催し、様々な活動同士がつながるきっかけになるなどを期待しています。今後もサポーターの安定的な活動について、健康推進課が中心となって、これまで協力体制にあった機関とも引き続き協力しながら支援していく予定です。

報告は以上です。

質疑応答

【会長】今回は昨年度に比べ2倍近くの申し込みがあったということだが、昨年度と比較してモチベーション等違いはありましたか。

【事務局】ご自身の地域活動や読み聞かせに参加する人からは読み聞かせの良さを伝えていただいたことにより、他の参加者達のモチベーションアップにつながったと思います。

【事務局】養成講座は、昨年度の評価でソーシャルキャピタルの醸成が重点項目に挙げられているにも関わらず、弱かった部分であり、今年度は力を入れて実施しています。社協の方に参加や、先駆的な事例として、具体的にノルディックウォークや、川崎市の読み聞かせの方の活動を見る中で、地域のつながりをどうやって健康づくりにつなげていくか、職員も方向性が見えてきて、内容の充実につながっていると実感しています。

【委員】受講者の割合として男性が少ないが、工夫した点はありますか。また、どのような人が参加しているのですか。

元気いっぱいサポーターと地域、それぞれの分野で取り組みをしていて、健康分野、子ども

や障害部門等とつながっていくとふくらみがでて輪が広がっていくというのが自分たちの課題と感じているが、考えていることがあれば教えてください。

【事務局】男性が参加しやすい参加方法については、男性限定の講座ではないので、工夫しきれてないと思います。逆に、参加した人が参加しづらくなならないように、運営面では男性同士が交流できるような工夫をしています。

参加者については、退職をきっかけに地域で何をしたらいいかと考え参加している人が多くいます。昨年に引き続き、今年も夫婦1組がいます。

【事務局】事業の広がりについては、当課の企画、運営、健康づくり部門で少しずつ巻き込んでいますが、展望としては、市の施策のなかで市民協働、地域づくり、コミュニティの強化が求められています。これを巻き込むには職員のスキルも必要であるため、方向性を見定めながら管理職としても、アンテナを張って調整をしていくことが課題と考えています。

【委員】数年協議会に出席していますが、最初は元気いっぱいサポーターが何なのかわからなかったが、ノルディックウォークのグループをきっかけに、かなりぐっと形になり、深まった感があります。突破口がみえてきたのだらうと思います。

【会長】対象者はほとんどが65歳以上の方であり、平日の昼間の開催なので仕方ないと思います。高齢部門でもサポーター等あるが、同じ人がいくつもやっているのか、そうではないのか教えてください。

健康推進部門成人担当部署なので、64歳以下の人をつかまえる手段はないのか検討が必要ではないか。開催を土曜日などの集まりやすい曜日、時間帯に設定し、早めに壮年層を捕まえていくことは今後の次世代育成につながるのではないか。壮年世代は子育て世代や高齢者層のこともわかり、高齢部門以外の橋渡しもできるのではないか。壮年層への取組に力を入れてもいいのではないかと思います。

【事務局】現在は講座実施日が平日の昼間となっていますが、開催日そのものを土日にするのが良いのか、サポーターの取組を周知する単発のイベントを現役世代が参加しやすい時間帯に開催し、サポーターの周知を進めるのがいいのか検討しています。

【事務局】子育て世代の取り込みも必要と考えています。何かのきっかけからつながるといふ職員の気づきや情報収集が必要であると考えています。

【委員】つながる会に参加しています。最初に自分が入ったきっかけは、若い人とコンタクトをとりたいということでした。活動では長時間の応援はできないが、2、3時間看護師・保健師等職員が入ることによって歩きながらおしゃべりができる。男性の参加については、今まで声を発しなかった男性が、どの道を歩こうかということと話しているときに、積極的に話し合いに参加している姿も見られる。男性は市のことに関して詳しく、現在はコースリーダー的存在になっており、今はそのことを楽しみに参加させてもらっています。

【会長】男性には積極的に役割をもたせるのが有効ですね。

【委員】参加者の声として、もっと早くから参加したかったという声も聞きます。そこに行き着くまでのアプローチが足りないと感じており、周知の仕方の工夫が必要と感じています。

【事務局】周知は、口コミなど発信力が問われるのかなと感じています。役所型の発信の仕方では若い人を取り込むのは難しく、工夫が必要と感じています。

【委員】広報が紙面だけだと厳しいですね。

【会長】壮年層を取り込む検討について、日中汗を流しての手伝いは難しいがインターネット等精通

している世代なので、広報活動をやってもらえる可能性もあります。シニアのボランティアとは違う形の役割があるのではないかと。いずれにしても、壮年層の取り込みをしていくのは有効だと思います。

・栄養改善推進員教育事業

【事務局】

平成30年度栄養改善推進員教育事業についてご報告いたします。

資料1-3をご覧ください。

栄養改善推進員とは、元気いっぱいサポーターのなかで、市で実施する「栄養改善推進員教育事業」を修了した、栄養・食生活に特化したボランティアです。2～3年に一度、地域に密着して健全な食生活の普及啓発活動を行う人材の養成を目的に、本事業を実施しています。

受講者の内訳は2の表をご覧ください。今年度は男性の申込みはなく、39歳から70歳までの女性で20名より申込みがありました。説明会では、栄養改善推進員の活動や講座のカリキュラムの説明後、講座修了後の活動のイメージを描けるよう、現栄養改善推進員による調理実習を体験していただきました。

表にある受講者とは、説明会終了後に講座の受講を希望した者で15名、修了者は、講座の全過程を受講した者、欠席に時には補講で対応し、14名でした。

教育事業のカリキュラムは、表に示したとおりです。

2回目以降はグループワークが中心となり、グループごとにテーマや対象を定め、生活習慣病予防の食事の献立作成、調理実習を行いました。

修了後の活動については、裏面の3をご覧ください。

栄養改善推進員で構成された自主グループ「府中栄養改善推進員の会」への入会は6名で、会員数は26名となりました。

主な活動は①と②で示したとおりですが、新入会員には、個別に市との協働事業についての活動の希望を聞き、1歳6か月児健康診査、東京外国語大学で実施する食生活相談会で活動予定です。そのほか11月に実施する協働まつりへの出展準備にも協力しています。

子どもの食育活動に興味がある方が多くいたため、やりがいをもって活動が続けられるように、市として活動の場の提供、情報提供等、活動の支援をしていきます。

なお、栄養改善推進員と協働して食育を推進するのと並行して、全庁的にも食育推進事業に取り組んでいく必要があります。昨年度に食育推進計画の中間評価を実施した結果として、目標にしていた朝食の欠食を減らすことについて十分に実現できていないことがわかっていることから、各課の取組を調査するなど、食育推進事業の充実を図っていくように努めていきます。報告は以上です。

質疑応答

【委員】男性がいないのは寂しいですね。

【会長】男の料理教室からは推進員にはなりたい人はいないのですか。

【事務局】今までにそのようなケースはありません。平成24年度、28年度の受講者のなかではそれぞれ1名ずつ男性がおり、平成24年度に受講した男性が、現在、府中栄養改善推進員の会で活動を継続しています。

【会 長】男の料理教室は何人くらい受講されているのですか。

【事務局】20名ほどです。

【会 長】それだけいるのであれば、参加者を活用していけると良いですね。他市の事例では講座受講をきっかけに推進員になる方がいると聞いています。

【事務局】周知の仕方について検討していきます。

【会 長】男性は、役割を決めて活動してもらおうと思います。

【委 員】自分もこのような講座に参加することで、いろいろ知ることができると思います。個人でやろうと思ってもなかなかできないのでグループに加われると良いと思います。

・元気いっぱいサポーターの取組みに関するアンケート

【事務局】

資料1-4をご覧ください。

平成 27 年度より開始し、今年度は4回目で、サポーター登録者全員を対象にした郵送アンケートです。

1 実施者数ですが、サポーター登録のある1,380人に郵送しました。返信数は454人で、有効回答者数は449人・有効回答率は32.4%でした。

昨年より記名式にしたので、H28.29年度の養成講座修了者をサポーターリーダーとし、比較集計を行いました。内訳は、有効回答者数で、サポーターリーダー23人、リーダー以外426人です。母数の違いはありますが、返信率はリーダー82.8%、リーダー以外31.8%と大きな差がありました。

2 年齢構成は、棒グラフを見ていただくと、どちらも65歳から79歳までが多いです。リーダー以外の20代、30代の方は、母子保健係で行われている離乳食教室参加時に登録をした方々で、今度育児が落ち着いたら企画に参加したいという貴重な声もいただいています。

3 の男女比は、リーダーは半々ですが、全体的には女性が多いです。

4 アンケート結果ですが、【問1】の健康状態については、「①よい」とする人に差があり、リーダーが43.5%と健康状態に自信をもっている方が多く、「④良くない」とする人も0%で、つながる会にも定期的集まれています。【問2】近所との付き合いでは、リーダーは「つきあいはない人」とした人は0%でした。【問3】交流のある外出については、①ほぼ毎日と②週4,5回の人を【頻度が高い群】とし、⑤月2,3回～⑦月1回より少ない人を【頻度が低い群】としています。リーダーは外出頻度が高い群に多く、リーダー以外は頻度の低い群に多い結果となりました。今回の設問は、「交流のある外出」であり、「単純な外出」の頻度とイコールではないですが、特性としては大切なポイントであると考えられます。【問4】地域活動への参加状況ですが、リーダーは「参加していない」とする人の割合は少なく、実際、つながる会以外の活動もしている方も多くいます。参考に①～⑨以外の活動について載せてあります。【問5】や【問5-2】は企画運営に関する設問ですが、リーダーでは興味・関心が高く、意識や活動への参加状況にも差があると思われます。

最後に、5 今後の課題ですが、アンケートも4年目になり、継続するかも含め、内容や時期などの検討が必要と思っております。毎年送付人数は増えていますが、回答率としては微増です。開始当初の目的は、サポーターの現状把握や協働できる事業の模索や、サポーターリーダーになりうる人材の発掘のために「企画運営に興味がある」とするサポーターへ個別連絡するなど、健康ふちゅう21推進のために活用してきた経過があります。一方で、健康推進課からの情報発信という視点としましては、サポーター全体に周知できるよい機会でもありますので、有効な活用方法とするとともに、郵

送アンケート以外のホームページ等の充実など、情報発信にはまだ課題があります。委員の皆さまにもぜひ、ご意見を頂けたらと思っております。よろしくお願いいたします。

報告は以上です。

質疑応答

【会 長】事務局から予想外であったことなど感想はありますか。

【事務局】まだまとめができていませんが、今回の養成講座参加者はつながる会と同じイメージでしたが、違いはあると感じています。今後のアンケートの活用については検討中です。

【会 長】定期的に実施している一般市民へのアンケートで共通した項目があると思うので、リーダー以外のサポーターとサポーターリーダーとで3つの層の違いを比較することができるのではないかと思います。

(2) 府中市がん検診検討会議について

【事務局】

資料2に基づき説明いたします。

がん検診検討会議につきましては、今年度の新規事業として取り組んでおります。前回の本協議会でも触れておりますが、当検討会議は、市が実施するがん検診のあり方を検討するのにあたり、非公開で専門家からの意見を聴取することを目的に実施しています。

1の設置の背景にありますとおり、各自治体は厚生労働省及び東京都が定める各指針に基づく実施が求められており、また、3の課題・検討事項にもあるとおり、東京都生活習慣病検診管理指導協議会から、平成28、29年度と連続して検診の実施方法や対象者などのがん検診のあり方について意見書が発出されています。

これらのことから、4の検討内容について、出席する各専門医などから意見を聴取しています。

裏面にうつりまして、5の開催スケジュールにあるとおり、すでに2回目まで会を終えています。出席予定者については、下の6の表にあるとおりです。

2回目までの主な内容については、1点目としては、数年後には東京都がん検診センターが一次検診の受入を終了する予定であり、その後の検診委託機関をどう確保していくか、2点目としては、安全安心な市の検診を実施するためにどう精度管理を徹底していくか、併せて、指針に基づかないが市が独自に実施している検診について、市としては廃止の方向性で考えていること、等に対して、多くの意見を出していただいています。

4回目終了後には、聴取した意見を報告書として作成し、市としての今後の方向性をまとめていく予定です。

説明は以上です。

質疑応答

【会 長】ご意見いかがでしょうか。

【委 員】意見なし

【会 長】引き続き、検討いただくということでお願いします。

(3) 成人歯科健康診査と介護予防事業との連携について

【事務局】

資料3に基づき説明します。

平成元年に開始した成人歯科健康診査は、現在18歳以上の市民を対象に、毎年9・10月に歯科医師会へ事業を委託して実施しています。

健康増進法でその実施が求められている、40、50、60、70歳には市から受診券を発送しており、それ以外の市民は申し込みをすれば全員受診することができます。

18～39歳は若年者歯科健診、40～64歳は歯周疾患検診、65歳以上は口腔機能健診として実施しており、例えば、若年者と歯周疾患健診ではかむ力のかかり方によって色が変わるガムを噛んで咀嚼力をみたり、歯周疾患と口腔機能健診では歯周疾患の度合い見る検査をしたりといった検査項目を変えることで、年齢層に応じた健診項目を取り入れています。

実施の目的は、健診をきっかけにかかりつけ歯科医を持つことや口腔状況に応じた保健指導を受けられる環境整備などがあげられますが、特に65歳以上の口腔機能健診では、口腔機能の低下が認められる場合は、その場で保健指導を受けるだけでなく、他のサービスにつなげられる機能を期待しています。

市では、口腔機能の低下として、摂食嚥下機能の障害に関する相談窓口を設けており、健診受診の結果、その兆候や日常生活に支障が出ている場合など、専門機関につなげる取組を推進していますが、医療機関につなげる以外の連携があまりできていません。

一方で、市内の介護予防推進センターではフレイル予防教室を実施するなど、オーラルフレイルの対策を含む取組を始めてはいるものの、受講希望者が真に受講が必要かどうかの判断がつかねる状況でした。

フレイル予防についての取組が求められる中、当課と高齢者支援課、介護予防推進センターとの意見交換の場において、成人歯科健康診査の結果で総合判定が「口腔機能の状況が不十分な状態」となった高齢者に対して、フレイル予防教室をダイレクトに案内するのはどうか、という意見が出たことから、試験的に昨年度の健診結果をもとに事業案内を送付することを検討しています。

介護予防推進センターが実施するフレイル予防教室は、全身体操や筋トレといった運動のほか、食事と栄養、口腔機能と健康等の内容に関する講義を聴くなど、1回約一時間半の講座を12回、3ヶ月にわたって受講するスケジュールです。この事業は今年度から始まったため、まだ事業の振り返りの実績がありませんが、今後意見交換を重ねていきたいと考えています。

質疑応答

【委員】オーラルフレイルとは口腔機能の弱体化ということで 口腔機能が衰えることにより、身体機能も低下するということです。これに関しては、例えば、首都大学東京の名誉教授の星先生が「長生きしたければかかりつけ歯科医を持つ」ということで著書も出していたり、大きな手術の前に口の中をきれいにしていく、ということで各歯科医院に依頼があったり、周術期口腔管理という項目も保険点数に導入されたりしています。

府中市の成人歯科健診は人口26万人のうち約1万人の受診があり、日本トップ クラスの受診率を誇っています。今回、口腔機能の中で不十分な状態があると言う項目が増えたことによって、約1万人から歯科医師がピックアップされた方を、摂食嚥下のみであれば、小金井の口腔リハビリテーション多摩クリニックとか、日本歯科の方に送れるのだが、それ以外にも介護予防推進センターでは口腔だけではなく、口腔の状況に伴ってリハビリが必要にならない

為のリハビリのという窓口、流れができました。とても有意義なことだと思っています。

【会 長】オーラルフレイルは、フレイルの入り口として着目されています。歯科医師会には体制に協力いただいている状況だと思います。該当者が介護予防推進センターの事業に参加した後の再評価はあるのでしょうか。

【事務局】フレイル予防教室の参加前に握力や歩行力等の測定をし、3ヵ月後に事後測定もすると聞いています。現在実施中なので詳細な結果はこれからになります。

【会 長】オーラルフレイルの予防策や評価が難しく、これから手探りというところでしょうか。

口腔・からだのフレイルは栄養・運動・社会参加と三位一体のプログラムをやるのが原則とよく聞きます。からだのフレイルが良くなれば、口腔のフレイルも改善されるということがあると思うが、口腔とかなり限局されているので、単にからだのフレイルが改善しても、口腔はどうか、というところがあるかもしれません。その部分は歯科医師会にも協力していただきながら、評価指標を検討いただいた方が良いと思います。

【委 員】成人歯科健診は年1回、無料というのが魅力的な健診です。毎年来る方については、こちらにも慣れているので2・3年前と比べて衰えているかみることもできます。必要があればこのような事業を通じて、施設を紹介していくなどもできます。

【委 員】私は受けさせてもらう側です。歯科医院に行って先生に話をきくだけでなく、健診を受けながらフレイル予防も考えて先につなげてもらえるというのは安心できる良い事業だと思います。

【会 長】介護予防は、フレイル予防と生活習慣病対策の線引きが難しいものではあります。部署内の連携だけではなく、健康推進と高齢者支援の部門の連携を進めて行ってもらいたいと思います。

2 審議事項

(1)平成31年度市民アンケート(案)について

【事務局】

前回の協議会でも平成31年度市民アンケートの実施について、お伝えしましたが、詳細な内容について説明いたします。**資料4-1**をご覧ください。

まず、本アンケートの目的ですが、第2次健康ふちゅう21評価指標のため実施します。対象は18歳以上の市民で、前回調査の回答者4500人及び新規対象者16500人、合わせて21000人となります。新規対象者は無作為抽出で決定します。

実施時期は平成31年度春頃を予定しています。

次に、設問についてですが、過去の調査や都の計画や総合計画を参考に作成しています。前回調査との比較を行うため、大きな変更はしておりませんが、いくつかの新設項目及び項目変更があります。まず、「こころの健康」の 카테고리については、自殺対策事業の拡充にとまない、関連した設問を新設する予定です。

つぎに、資料の裏面にございます「食事」の 카테고리については、設問を変更しています。変更理由としましては、国の第3次食育推進基本計画の重点課題に「食の循環や環境を意識した食育の推進」があげられていることと、内容をより具体的なものにし、結果を事業に反映していくことがあります。前回調査では「食事への関心」を問う設問だった3番目・4番目を、「野菜摂取量」と「府中産農産物への意識」を問うものに変更しました。

資料4-2は現物案です。時間のあるときにご覧ください。

以上です。

質疑応答

【会 長】前回回収率50%くらいでしたか。

【事務局】50%弱でした。

【会 長】若年の回収率が悪いともうが、若年に多めに送付するなどの考慮はしていくのですか。

【事務局】無作為抽出ではあるが年齢配分を変える予定にしています。

【会 長】第1案ということで、今後詰めていくということよろしいですか。

(2)府中市自殺対策計画(仮)策定の進捗状況について

【事務局】

資料5をご覧ください。

府中市自殺対策計画(仮)の策定については、前回の協議会の中でも報告をいたしました。平成28年に自殺対策基本法が改正され、都道府県・市区町村は、それぞれ地域の実情に合った自殺対策計画を定めるということで、府中市でも策定を進めております。進捗を含め、概要について説明をさせていただきます。

本計画については、自殺が、様々な要因が複雑にからみあって起こるということを踏まえ、保健、医療、福祉、教育、労働その他の関連施策との有機的な連携を図り、対策を進め、市民一人ひとりが心豊かに生きるまちを目指しています。

また、計画期間は、平成31年度から平成35年度の5年間とし、内容の見直しをしていきます。

第3章の府中市における今後の取組の中で、基本方針として、5つの項目を挙げています。自殺対策は、(例えば、失業や多重債務、生活困窮等といった)生きることの阻害要因を減らすという取組だけでなく、生きたいと思えるような(自己肯定感や信頼できる人間関係等)「生きることの促進要因」を増やす取組の両方が必要と言われています。こういったことを踏まえ、基本方針の(1)では自殺対策を生きることの包括的支援として推進するとしています。

(2)から(5)についてもそれぞれ挙げており、市民一人ひとりや、地域全体で具体的に、それぞれができる取組をしていくことを大切にしていくものとしています。

施策の体系については、全国的に実施することが望ましいとされている「基本施策」地域の特性に応じた対策を選別した「重点施策」、既に実施されている様々な事業のうち、自殺対策と連携し、生きることの促進要因を増やすことにつながる「生きる支援関連施策」の3つの柱からなっています。

(資料 裏面)、

基本施策については、(1)地域におけるネットワークの強化 (2)自殺対策を支える人材の育成、(3)市民への啓発と周知 (4)生きることの促進要因への支援 (5)児童生徒のSOSの出し方に関する教育となっています。

(4)については、イメージがしにくいかと思いますが、具体的には、ア自殺のリスクを抱える可能性のある人への支援、イ自殺未遂者への支援、ウ遺された人への支援、エ支援者のメンタルケアとなります。

また、重点施策については、府中市の自殺の特徴として、国から、勤務経営問題、高齢者問

題、生活困窮者問題、無職者・失業者問題の4つを挙げられておりまして、前は4項目と
していましたが、今回まとめていくにあたり、生活困窮者問題と無職者・失業者を1項目に
まとめた3項目を重点施策としました。取組の内容等具体的な所は、今後、改めて、関係課
と調整し、深めていく予定です。

また、『生きる支援関連施策』については、5月に実施いたしました関係課へのヒアリング
の中で把握した事業を7つの施策に紐付けし、提示していく予定です。

本計画の推進体制については、自殺対策事業関係課長会議や自殺対策関係者連絡会で推進
していくとともに、本保健計画推進協議会の中で進捗状況を管理していくこととしています。

今後の予定、11月7日(水)に関係課長会議を実施し、各課の意見も確認しながら、平
成31年9月に公表できるよう進めていきたいと思っております。

質疑応答

【会 長】基本施策の(4)生きることの促進要因への支援「エ 支援者のメンタルケア」とははどうい
つたものですか。

【事務局】相談業務に関わる職員は、相談の中で死にたいと言われることなどもあり、精神的な負担と
なってしまうため、メンタルヘルスを保つケアの必要性があります。

【事務局】府中市の場合、税の徴収などの金銭面だけではなく、生活面等、関連する課長とともに進め
ています。支援者は自分の支援の仕方が悪かった(例えば介護保険のプランの立て方が悪
かったなど)、責任を追いやすい環境です。そういった状況について、職場内では表出や共
有しにくいということも、健康推進課の実施する関係機関向け従事者研修等のアンケートで
は、声が寄せられていました。自死の方法でも、家族が困らしている隣の部屋で亡くなっ
ていたなど、残された家族に対する支援も重要となります。数としては年間40人ですが、深
いものがあります。今後、支援についても計画に盛り込んでいきたいところです。

【委 員】生きる支援関連施策の中に残された人への支援に盛り込むのですか。

【事務局】残された方が相談につながるような工夫として、死亡届出などの際に少し落ち着いた頃み
ていただくリーフレットなどの配布を考えています。

【委 員】社協の職員も様々な相談を受ける立場なので、同じような思いをもっていると思います。

なかなか難しいと思いますが、職員側の支援が何らかの形であることによって気持ちが変わ
ってくると思います。

【会 長】重点施策で、「(3)勤務経営問題に関わる自殺対策の推進」とありますが、商工会議所では
あまり話題になることはないですか。

【委 員】メンタルケアといっても、商工会議所では自殺までは想定していません。実際、事業が失敗し
てしまい、そういう結果になってしまった人もいます。厳しい言い方ですが、ビジネスの世界
では自己責任という考え方があります。いろいろな背景や環境でそういう結果になった場合
のこころのケアはとても難しいと感じます。

【会 長】商工会では経営者も従業員もいると思います。働きかた改革などもあると思いますが、従業員
の方向けの意識啓発等実施されているのですか。

【委 員】商工会議所での相談としましては、楽観的なものになります。従業員対策といっても、集客が
難しいのでレクリエーションをやるなど考えることなどはありますが、実際、そこまで追い込ま
れた従業員の想定をしていません。商工会議所は経営者の集まりです。

【委員】地域の困りごととはできるかぎり地域住民の中で解決ということも進めています。研修としては行っています。専門職にバトンタッチしたときにどのような対策をしていくか考えることが大切と感じています。

【委員】ちょっとした一言で、自分にとってはリスクと感じないこともその人にとっては深く傷つくケースもあります。若い方との考え方の差もあるので、若い人との共通点を持ちたいと思ってサポーター活動も始めました。社会全体が団体から個に移ってきており、全体が見られないため、言葉を飲む瞬間も増えてきています。退職した直後は目的意識が薄れることもあります。

【事務局】商工会議所としてのお話がありましたが、先日、計画の策定にあたり、現状の聞き取りに行かせていただきました。現在は、まだ具体的な取り組みを行っていませんでしたが、今後、会員向けのゲートキーパー研修等については、前向きなご検討をいただいています。当課が作成するこころの健康に関するリーフレットなども定期的な郵送物に同封してもらいも依頼してきたところです。

専門機関向けの支援として、当課で事例検討会を実施しています。色々な関係機関が連携して支援した事例など、医師などのスーパーバイザーからアドバイスをいただいています。今年度から社会福祉協議会より参加いただいています。事例検討することにより、知識を入れていただき、組織のなかで広めていただくことで自殺対策そのものに確信をもって対応していただけることがメンタルヘルスを低下させないことにつながるのではないかと考えています。

【委員】商工会議所の窓口はどこですか。

【事務局】窓口は総務課です。総務課は当課が商工会議所ニュース、会員向けのメールマガジンを通じて健康情報を配信させていただいている部署になります。

【会長】本日の議事は以上です。長時間にわたり熱心なご討議ありがとうございました。事務局にお返しします。

【事務局】事務局より2点お願いがあります。

まず本日の議事録についてですが、後日委員の皆さまにご確認いただき、1か月半頃を目途に公開する予定です。公開場所は市役所3階市政情報公開室、図書館、市ホームページを予定しています。会議録は発言者の氏名は記載せず、会長は「会長」、その他の委員は「委員」と記載させていただきますので、ご了承ください。2点目ですが、次回第3回の協議会は2月頃を予定しています。後日日程調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。本日は、これで終了となります。活発なご意見をありがとうございました。

以上